

大谷学会 春季公開講演会

2024年

日時

5月29日 水

14:40~17:50 (開場14:10)

会場

大谷大学講堂

〒603-8143 京都市北区小山上総町 (地下鉄北大路駅⑥番出口すぐ)

お問合せ先

大谷学会

E-mail: o-gakkai@otani.ac.jp



入場無料

事前申込不要 / 一般来聴歓迎

◎駐車場・駐輪場はありませんので、公共交通機関をご利用ください

14:50~

見えないものを見る力

江森 英世氏

大谷大学教授 / 群馬大学名誉教授【数学教育学】



世界では社会的紛争や戦争が起きている。君と私は、なぜ同じ価値観を持ってないのか。それは、私に見えている世界が君には見えず、君に見えている世界が私には見えないからかもしれない。分断された世界を乗り越えるために、数学を学ぶことを通して、見えないものを見る力を育みたい。皆が幸せに暮らせる世の中を作るために。

【講師紹介】

1959年東京都生まれ。筑波大学大学院博士課程満期退学。博士(教育学)。群馬大学教育学部教授、群馬大学名誉教授を経て、2018年より大谷大学教授。三人寄れば文殊の知恵という数学的コミュニケーションの創発性の認知メカニズムについて考えている。著書に『数学学習におけるコミュニケーション連鎖の研究』(風間書房,2006年)、『算数・数学授業のための数学的コミュニケーション論序説』(明治図書出版,2012年)、『アクティブ・ラーニングのための算数教材研究』(明治図書出版,2016年)などがある。

16:20~

数えることのはじまりの物語 — 沖縄の藁算をめぐって

竹村 景生氏

天理大学教授【ホリスティック教育】



数学のはじまりは、「数える」ということから始まったと言えるだろう。しかし、その「数える」が必ずしもその地域で数学に発展したわけではない。かつて沖縄で使われていた「数える」道具であった藁算から、身近にある様々な「はかる」の物語へと思いを巡らしてみたい。

【講師紹介】

1959年奈良県生まれ。大阪府立大学大学院博士課程満期退学。修士(教育学)。奈良教育大学附属中学校教諭を経て、天理大学教授。暮らしの中で「かず(数)」や「かたち(形)」はどのように受容され、地域に息づいてきたのかをフィールドワークし、教材化することを考えている。著書に『学力がつく総合的な学習の構築』(共著,明治図書出版,2004年)、『持続可能な教育と文化』(共著,せせらぎ出版,2008年)、『発問&板書で丸わかり!中学校新数学科授業ライブ』(共著,明治図書出版,2011年)などがある。